



荒川 義孝 議員

### 教育活動再開における 知育、体育、徳育の 取り組みについて

**問** 児童生徒の心のケアにどのように取り組んでいくか。

**答** スクールカウンセラーも活用しながら、必要に応じてその子にあった支援や

相談活動を実施する。

**問** コロナ禍を契機とした差別や偏見の教育についてはどのように考えているか。

**答** 子どもたちに考えさせる機会を定期的につくり、偏見や差別を認めない心を育てていきたい。

**問** 休業期間中の自宅学習が評価にどのように結びつくか。

**答** 課題について、正答数などでなく主に関心や意欲という面で評価の対象としていきたい。

**問** 中学3年生の部活動はどうなるか。

**答** これまで頑張ってきた成果を発揮し、達成感を味わわせるためにも、碧南・高浜の地区大

会の開催や締めくくりの場を検討している。

**問** 今後の学校行事についての考えは。

**答** 中止とせざるを得ないものもあるが、授業時間確保のために安易な中止は考えていない。

**問** 今回の経験を活かし、教育現場ではどのように取り組んでいくか。

**答** どのような力が身についたのかという学習成果で測ることへの転換を図る転機となり、何をどう学ばせるのか考え、授業づくりや、学校行事等の計画を考え、実践していきたい。

### いきいき号の今後の取り組みについて

**問** 緊急事態宣言による外出自粛や移動制限により乗客数は。また、感染予防対策は。

**答** 利用者は、対前年比で大幅に減。感染予防対策は、車内に「空気清浄機」を設置し、こまめな換気や張り紙による周知を行っている。

**問** 公共交通網を形成するための手段としてデマンド交通や民間事業者との連携も必要と考えるが、今後、どのように取り組んで行くか。

**答** 今後、普段の生活様式の変革が求められる中、専門的なご意見のもと、皆さんの生活に密着した、使い勝手の良いものを創り上げたい。



長谷川 広昌 議員

### 障害児施策の更なる 充実について

**問** 18歳未満の手帳保持者の内訳は。

**答** 身体障害者手帳35名、療育手帳127名、精神障害者保健福祉手帳8名。

**問** こども発達センターなどにおける相談件数は。

**答** お子さんの発育や発達に関すること、障がい等の悩みなど年間1,100件程度。

**問** 共働き世帯が多い現実と親の負担などを考えると、保育園機能と早期療育を合わせて一体的に行え単独通園可能な施設が必要と考えるが。

**答** 対象となる保護者やこれまで経験をされてきた保護者の声も聞きながら、協議を進めていきたい。

**問** 昨今、発達障害がマスコミでよく取り上げられ、その割合が通常学級の約6%、30人に2人と言われているが、市内小中学校における発達障害の現状は。

**答** 小学校の児童総数3,061人に対し156人、

約5%。中学校の生徒総数1,490人に対し53人、約4%。

**問** 特別支援学級及び特別支援学校の在籍状況は。

**答** 特別支援学級在籍数は小学校75名、中学校36名。また、市内在住の特別支援学校在籍数は46名。

**問** 今後ますます特別支援教育に関する知識や技術の重要性が増すと考えられるが、市内教員の特別支援教育に係る教育職員免許状の状況と保有率は。

**答** 特別支援教育に係る教育職員免許状保有者は269名中、8名、保有率は3%。保有率は低いが、さらに特別支援教育への理解と意識を高め、児童生徒一人一人の自己肯定感を高められる教員集団となるよう努める。

**問** 特別支援学校の子たちとの繋がりや状況把握は。

**答** 特別支援学校の先生方に特別支援連携協議会に参加してもらい情報提供していただいている。今後は保護者も含めて積極的に働きかけ、乳幼児から成人期に至るまでの一貫した支援の実現を目指す。